

Title	語文 第15輯 編輯後記/投稿規定/奥付
Author(s)	
Citation	語文. 15
Issue Date	1955-07-15
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68485
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編輯後記

梅雨どきに予報通りの長雨もなく、いつの間にか暑くなつて、すでに七月に入つた。この第十五輯ができあがるのは、盛夏の候になることであらう。

○ 前の第十四輯は連歌の特輯であつたが、本輯は、諸方から寄せられた原稿を選んで、御覧のごとく編輯した。内容はかなり多彩なものになつてゐる筈である。

○ 秋本氏は万葉集の「玉の緒ばかり」について、横山氏は初期浄瑠璃に於ける濡場の史的展開について、それぞれ両氏の専門的領域の問題を取上げて論考せられた。

薬師寺君の正徹に関する論と、今井君の古今集両度聞書を中心とする解釈の論とは、若い両君の力の籠つた研究である。

以上を主論文として、三上氏の文法に関する論、および、現在阪大の図書になつてゐる

土橋家旧蔵書の目録の続編を取めた。目録の方は、前回までは田中氏が作製して下さつたが、今回は八木氏を煩はした。

○ 右いづれも大方の御清鑑をこひねがふ次第である。

○ 近頃、雑誌・紀要の類に発表せられる国文学関係の論文は、ずいぶん数が多いやうである。それぞれの論文の価値は、時がたつうちに決るであらうが、学問の進歩といふ上からみれば、個人の研究は、結局時計の歯車のやうなものではないかと思はれる。

○ 小さい研究であつても、精確な歯車であれば、学問の進歩の上に重大な役割を演ずるであらう。本誌も国文学の研究を前進させる、学界の精確な歯車でありたいと念願してゐる。篤学の士の御支援と御期待とを願ふ所以である。

○ 酷暑の折柄、読者諸賢の御自愛を祈つて筆をおく。

(宇佐美)

投稿規定

○ 直接購読者は投稿することができ。
○ 原稿の内容は国語・国文学、国語教育に関するものであること。分量は四百字詰原稿用紙二十枚以内とする。

○ 原稿の送り先は「大阪府豊中市柴原、大阪大学文学部国文学研究室内、語文編輯委員」宛。

○ 原稿の採否は編輯委員に一任のこと。
○ 採用しなかつた原稿は返送料が添付してあれば返送に応ずる。

○ 一括購読者が投稿する際には代表者から紹介せられたい。

◆ 雑誌の寄贈・交換について

○ 雑誌の寄贈・交換は大阪府豊中市柴原 大阪大学文学部国文学研究室宛に願ひたい。

◆ 購読について

○ 購読希望者は発行所宛前金を添えて申込むこと。(送金は振替を利用されたい。)

一部 五十円 送料八円
一年分(四回分)二百円(送料共)
○ 五冊以上一括購読の時は一割引の上送料は不要とする。

¥ 50

発行所 大阪市 南区 横堀 7 丁目 19 文 進 堂 振替大阪112730番 電話船場(25)1990番
編輯者 大阪府豊中市柴原 大阪大学文学部国文学研究室 代 表 小 島 吉 雄